平成25年度　Ｄブロック勉強会　アクションプラン

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成26年2月6日（木）

◆個人で考えた問題の定義（なにが問題の本質か）

●お薬手帳の必要性が理解されていないこと（説明不足）　●患者さんによって必要度にばらつきがあること

●薬剤師側の理解度（必要性への理解・大切さ）・薬局間に温度差があること

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　が問題

◆班で考えた問題の定義（なにが問題の本質か）

患者さんがお薬手帳の意義（メリット）を理解できず、持参しないこと　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　が問題

◆アクションプラン

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|

|  |  |
| --- | --- |
| Ｄ１班　 | 目標：お薬手帳の意義を理解してもらって必ず持参してもらう！ |

　　目標にいたる具体的な解決策

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| いつ（実施時期） | 明日から | 誰が（実施主体） | 各薬局が |
| 誰に（働きかけ先） | 患者さんに |
| どのように（方法） | ●今飲んでなくても、これから（未来で）服用するかもしれないその時に、相互作用や病態がわかるために手帳が役に立つことを伝える。　　　●今日渡した薬の説明だけではなく、場合によってはそれ以前に投薬された薬の説明もしてみる。（違う診療科の薬剤師の目で見て説明すると、また違った副作用等も予防できる。）●手帳にカバーがついてない患者さんには、必ずカバーをつけてあげて他の糖尿病手帳や保険証、検査結果なども挟み込んで一つにまとめるよう説明し、病院、薬局に行くときは「これだけ出せばＯＫ！」のグッズ状態にするよう勧める。 |
| 備考 |  |

 |

◆振り返り

「いつ」「誰が」「どこで」「どうする」と書き残すことが、自分の脳に刻み込まれた感じがあり、すごく記憶に残り、面白い取り組みだと思いました。カバーなど出来ることから始めて、手帳の価値を上げていきたいと思います。